

6. ブロイラー農場の鶏舎環境改善指導による生産性向上対策

豊後大野家畜保健衛生所 1) 玖珠家畜保健衛生所

○大木万由子・下田洋子1)・(病鑑)菅正和・(病鑑)堀浩司・芦刈美穂

【はじめに】病性鑑定事例（飼養管理失宜以外の死亡羽数増加）の多かった管内の一肉用鶏農家に対し、鶏舎環境調査および現地指導を行ったところ、生産性の向上や病性鑑定減少等の一定の成果を得たのでその概要を報告する。

【農場概要】当該農場は、肉用鶏を開放平飼の2鶏舎(第1、2鶏舎)において各鶏舎15,000～17,500羽を飼養し、堆積発酵処理した鶏糞を敷料として利用。家族3名経営で飼養管理（主に換気と保温）について意見の相違あり。14日齢および24日齢でND、IBDワクチンを投与しているが、投薬や消毒に消極的。

【取組概要】第2鶏舎において死亡羽数増加の通報が多く、過去出荷成績が不良だったため、2016年3月入雛群より3～5週齢時の定期巡回、糞便検査を実施。第2鶏舎が窪地にあることから環境要因が関与していると推察、第1、2鶏舎で鶏舎環境調査(スモークテスト、環境拭き取り採材)、定点温度計測(最高・最低気温、農家記録)、出荷成績とともに表やグラフにまとめ生産者へ返し、生産性向上へ向けた協議や指導を継続実施。

【調査結果および指導】

(1) 定期巡回：2016年4月から2017年9月まで14回、糞便検査は延べ94検体実施。病性鑑定事例については2014～2015年度は計6件（うち第1鶏舎1件、第2鶏舎5件）、2016年4月の指導開始以降は2017年度9月現在まで0件。

(2) 鶏舎環境調査：2016年度は、第2鶏舎における構造上の一部換気不良の判明や環境中からのサルモネラ属菌分離を受け、空舎期間中の堆積発酵床の切り返し回数の増加やホルマリン燻蒸を指導。2017年度は、同鶏舎の換気扇の更新を検討し、6月に設置完了。糞便のPCR検査からコクシジウム (*Eimeria tenella*) の浸潤が判明したため、4週齢でのコクシジウム病に対する予防的な投薬を開始。

(3) 出荷成績調査：平均生産指数は、両鶏舎ともに上昇。第1鶏舎：339.42 (2016) →343.95 (2017)、第2鶏舎：313.67 (2016) →350.59 (2017)。

【まとめおよび考察】第2鶏舎での死亡羽数増加通報事例および出荷成績不良の要因として鶏舎環境の違いに着目し、2016年度から鶏舎環境等の調査や指導を継続実施。その結果、鶏舎内温度計測を通じた換気への共通認識が得られ、生産者の飼養管理に対する意識が高まり、取組み開始前と比較し死亡通報が減少、出荷成績が向上した。今後は、適切な飼養管理の指標として湿度やアンモニア濃度測定等の追加を検討し、今回指導に使用した鶏舎環境の継続的な調査記録と出荷成績、家保検査成績との照合データを他農場においても指導資料として活用していきたい。